



# Ⅳ. 掘り出された副葬品

現代でも、亡くなった人と一緒に様々な品物を埋葬することがあります。その多くは故人に所縁の深いものでしょう。古墳時代でも、死者と一緒に多くの品物を埋葬しました。このような品物のことを、副葬品と呼んでいます。副葬品には、装身具や武器・農具などがあります。いずれも埋葬者

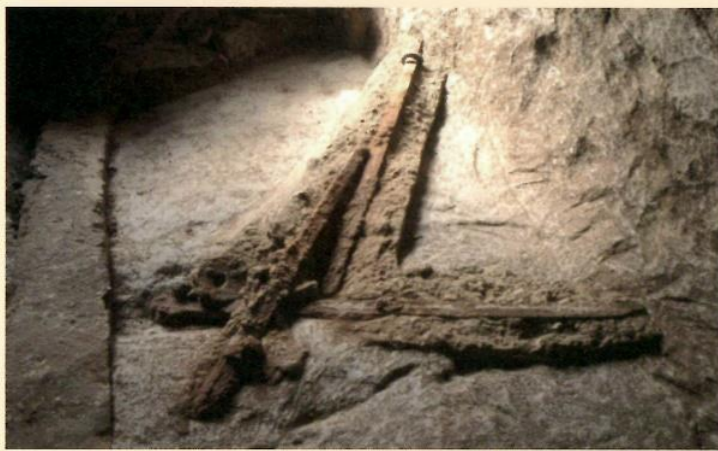
と深い関わりのあるものです。装身具などは、生前に使用していたものと考えられます。武器や農具などの場合は、生前に使用していたもののほかに、埋葬者が生前、武力や生産を主導していたことを象徴的に示すために遺体と一緒に納められたとも考えられています。



阿弥陀壇6号墳出土の馬具  
金銅装の立派な辻金具(上)と雲珠(下)

阿弥陀壇古墳群(郡山市大槻町) [7世紀]  
5世紀の方墳である1号墳のほか、横穴式石室を持つ7世紀の円墳群が発掘調査された。このうち3号墳からは玉類などの装身具、6号墳からは金銅装の馬具などが出土した。

阿弥陀壇3・4号墳出土の装身具  
中央の大きなメノウの勾玉のみ4号墳出土



蝦夷穴13号横穴の大刀出土状況



守山城三ノ丸1号墳出土の装身具

# 古墳時代 “黄泉の国”の考古学

古墳時代後期に取り入れられた横穴式石室や横穴墓は、古代人の精神世界に大きな影響を与え、

日本神話に登場する“黄泉の国”成立の背景になったと考えられています。

今回の企画展では、郡山市内を中心に、福島県内の例も踏まえながら、古墳時代後期の古墳について紹介します。

## I. 「黄泉の国」と横穴式石室・横穴墓

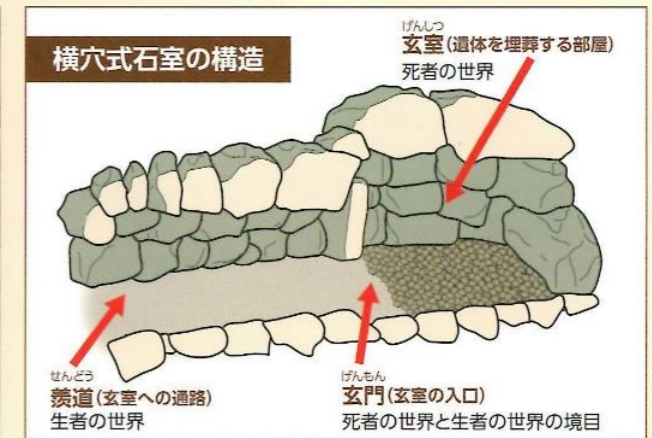
古墳時代後期になると、横穴系の埋葬施設が導入されます。横穴系の埋葬施設は、遺体を埋葬する部屋と外部とを、横方向の通路でつないだ構造を持つのが特徴です。遺体の埋葬後、通路は石材や土砂によって埋め戻します。そのため、通路を塞いでいた石材や土砂を取り除くことによって、同じ古墳や横穴に、再び遺体を埋葬することができます。このような行為のことを、追葬と呼んでいます。追葬される人物は、最初に埋葬され

た人物の近親者と考えられています。

追葬者を埋葬する際、当然のことながら、初めに埋葬されていた人物の遺体は朽ち果てています。それを目の当たりにした人々は、死後の世界を強く意識するようになります。そこで生まれたのが、死者の住む世界としての「黄泉の国」です。「黄泉の国」の成立には、横穴系の埋葬施設の登場が大きく影響しているのです。



蒲倉古墳群の横穴式石室(郡山市蒲倉町・横川町・安原町) [5号墳:7~8世紀]  
後世の改変により、天井の石などが失われている。



岩壁に掘り込まれた蝦夷穴横穴墓群(郡山市田村町小川) [7世紀]

### 大安場史跡公園 平成28年度 第2回企画展「古墳時代 “黄泉の国”の考古学」

会期：平成28年10月29日(土)▶12月11日(日) 会場：大安場史跡公園ガイダンス施設  
主催：郡山市/郡山市教育委員会/大安場史跡公園管理センター(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)  
協力：泉崎村教育委員会/いわき市教育委員会/双葉町教育委員会/南相馬市教育委員会(順不同・敬称略)



紙へリサイクル可

大安場史跡公園管理センター(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)

〒963-1161 福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地 TEL.024(965)1088 FAX.024(965)1090

E-Mail oyasuba@bunka-manabi.or.jp Web http://www.bunka-manabi.or.jp/oyasuba



この紙はFSC®認証紙です。

## Ⅱ. 横穴式石室の祭祀と神話

“黄泉の国”の成立に大きな影響を与えた横穴式石室では、様々な祭祀が行われました。土器を用いた祭祀、火を用いた祭祀などです。守山城三ノ丸1号墳では、土器を用いた祭祀の痕跡が、蒲倉古墳群では、土器や火を用いた祭祀の痕跡が確認されています。一方で、多くの日本神話を記録

する古事記や日本書紀には、“黄泉の国”を舞台とした物語がみられます。特に有名なのが、「よもつへぐい」と「ことどわし」です。“黄泉の国”と横穴式石室とが親密な関係にある以上、これらの物語と古墳で実際に確認された祭祀の痕跡とが、無関係であったとは考え難いでしょう。



守山城三ノ丸1号墳出土の須恵器  
死者の食べ物をお供えた食器。



横穴式石室の玄室床面  
後世の開発により、石室上部の大半は壊されていた。



守山城三ノ丸1号墳(郡山市田村町守山)【6世紀】  
一部分のみの調査だが、前方後円墳の可能性もある。



蒲倉40号墳の横穴式石室【7~8世紀】  
蒲倉古墳群では、多くの古墳で火の焚かれた痕跡が確認できた。その多くは、追葬の時のようである。



玄門で出土した炭化物  
玄門で火の焚かれたことがわかる。火を用いた祭祀が行われたと考えられる。

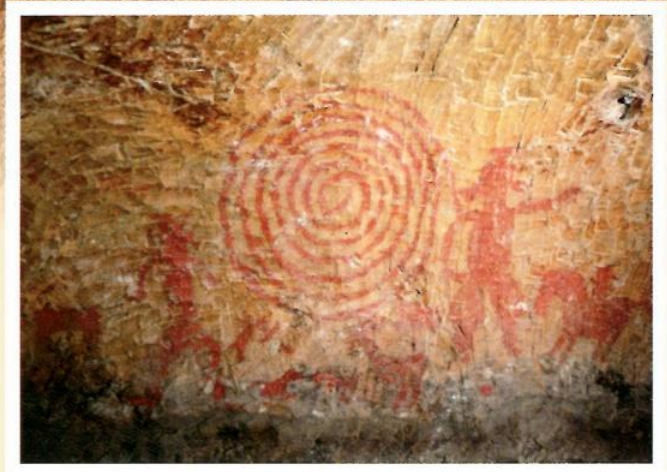
## Ⅲ. “黄泉の国”のイメージ — 装飾横穴の世界 —

横穴式石室や横穴墓には、壁画の描かれている例があります。福島県では、壁画の描かれた横穴墓が多くみつかっています。このような横穴墓のことを、装飾横穴と呼んでいます。壁画が描かれたのは、遺体を埋葬した部屋であることがほとんどです。そのため、古墳時代の人々が抱えてい

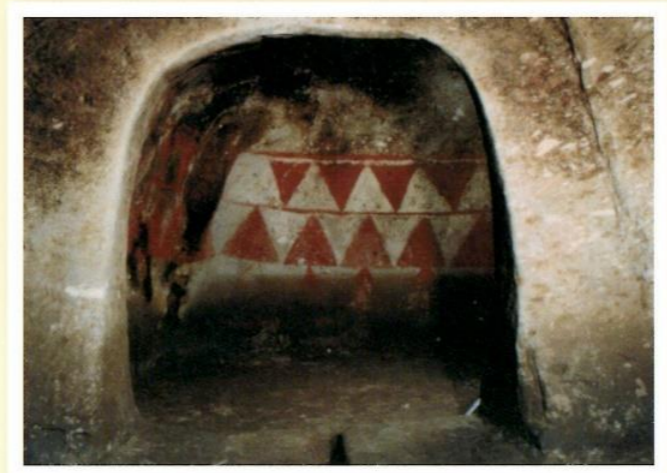
た“黄泉の国”のイメージを、壁画から想像することができるのではないかと考えられています。壁画のモチーフは様々ですが、渦巻きや三画といった幾何学的な模様と、人物などの描写がみられます。壁画の顔料は、赤色であることが多く、古墳時代の人々の赤色に対する思いがわかります。



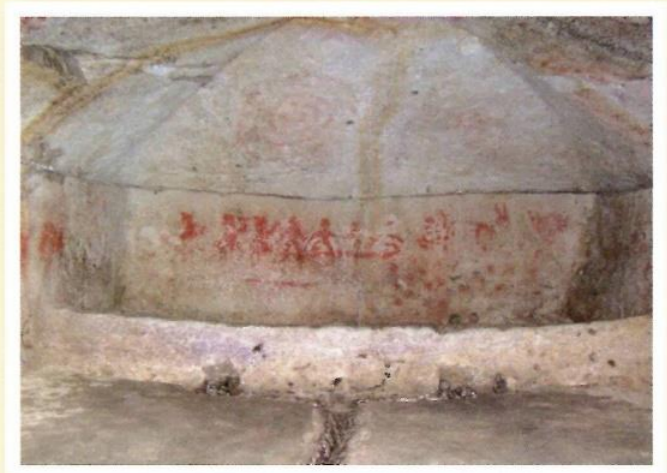
羽山装飾横穴(南相馬市原町区)  
赤色顔料と白色顔料を使って、人物や馬・鹿、渦巻きや珠文などが描かれている。(写真提供:南相馬市教育委員会)



清戸迫装飾横穴(双葉郡双葉町)  
赤色顔料で人物・馬・渦巻きなどが描かれている。現在確認されている最北の装飾横穴。(写真提供:双葉町教育委員会)



中田装飾横穴(いわき市平)  
赤色顔料と白色顔料を使って、三角文が3段に描かれている。(写真提供:いわき市教育委員会)



泉崎装飾横穴(西白河郡泉崎村)  
赤色顔料で人物・鹿や渦巻き・珠文などが描かれている。(写真提供:泉崎資料館)

